

— 2021年冬の復元完了目指して、鋭意復元作業中！！ —

東武鉄道 創立123周年を記念し、SL復元機の車両番号を「C11形123号機」に決定！！

東武鉄道株式会社

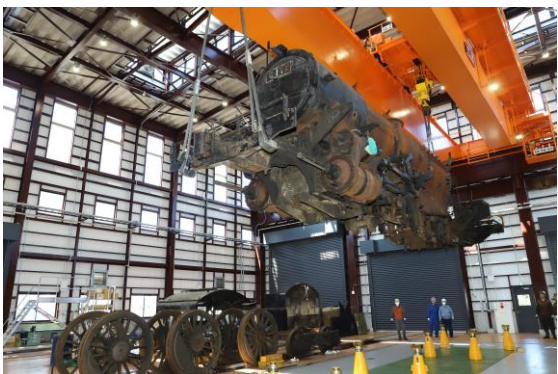
東武鉄道（本社：東京都墨田区）では、2021年冬の完了を目指して復元作業を進めておりますSL復元機について、車両番号を「C11形123号機」とすることを決定しました。

これは、当社が2020年11月1日（日）に当社が創立123周年を迎え、この123周年がSL事業の転換期を迎える年であることに加え、日本国内において唯一同一形式の車両による3機体制（1機はJR北海道から借り受け）となることから、1→2→3（ホップ、ステップ、ジャンプ）と将来に向かって更なる飛躍を車両番号で表現すべく蒸気機関車の車両番号を「C11形123号機」とします。

また、SL復元機が、この転換点の先頭に立ち、将来に向かって「1・2・3」と力強く助走して飛躍していくシンボルとして、他の2機とともに「鉄道産業遺産の保存と活用」「日光・鬼怒川エリアの地域活性化」「東北復興支援の一助」の3つの目的を、さらに力強く推進していくとの想いを込めております。

なお、復元工事が完了すると私鉄が発注した国産蒸気機関車のうち、唯一の動態保存の蒸気機関車となります。

当社では、SLの複数機保有により、日光・鬼怒川エリアでのSL毎日運転や、三重連運転などの様々なバリエーションの楽しい施策の実施、魅力あふれるコンテンツの磨き上げを行い、今後も引き続き日光・鬼怒川エリアの活性化に寄与してまいります。



▲復元作業中の
SL復元機「C11形123号機」

SL復元機「C11形123号機」について

1 復元予定日

2021年冬

2 復元作業実施場所

南栗橋SL検修庫

3 SL復元機「C11形123号機」について

1947（昭和22）年に江若鉄道（滋賀県）^{こうじやく}の発注により、日本車輛製造にて製造。江若鉄道で客車を牽引したのち、1957（昭和32）年から雄別炭礦鉄道（北海道）^{ゆうべつたんこう}、1970（昭和45）年から釧路開発埠頭（北海道）にて貨物列車として活躍しました。1975（昭和50）年廃車後、日本鉄道保存協会にて静態保存されていました。



△雄別炭礦鉄道時代のC11 1 1969年2月11日 鶴野にて
撮影：石川一造（提供：名取紀之）

以 上